

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月2日

上場会社名 株式会社テレビ東京ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 9413 URL http://www.txhd.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小孫 茂  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理局長 (氏名) 岩田 英治 (TEL) 03-6635-1771  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日~平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	107,683	0.9	6,144	7.5	6,614	9.6	4,184	12.1
29年3月期第3四半期	106,767	6.2	5,713	△13.1	6,032	△11.9	3,731	△13.1

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 4,834百万円(9.0%) 29年3月期第3四半期 4,436百万円(△7.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	147.96	—
29年3月期第3四半期	131.96	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	118,661	82,062	67.0
29年3月期	116,275	78,443	65.4

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 79,548百万円 29年3月期 76,061百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	15.00	—	25.00	40.00
30年3月期	—	15.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	25.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	147,500	3.4	7,000	9.5	7,500	10.4	5,500	28.3	194.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	28,779,500株	29年3月期	28,779,500株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	501,098株	29年3月期	501,163株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	28,278,383株	29年3月期3Q	28,278,608株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月～12月)における日本経済は、企業収益や雇用情勢の改善傾向のなか引き続き緩やかな回復基調にあるものの、海外における不安定な情勢や経済の不確実性など、依然留意が必要な状況で推移しました。

このような状況で、当社グループの連結売上高は1,076億8千3百万円、前年同期比0.9%の増収、営業利益は61億4千4百万円、前年同期比7.5%の増益となりました。また、経常利益は66億1千4百万円、前年同期比9.6%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億8千4百万円、前年同期比12.1%の増益となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりです。

## (地上波放送事業)

放送収入のうちタイム収入は、ネット・ローカル部門ともに営業企画が順調に推移しました。特番部門では、GH帯の大型特番や年末セールスは計画以上に進んだものの、週末夕方帯の営業企画枠が不調でした。また、前期の8月に開催された「2016リオデジャネイロオリンピック」による売上の反動が大きく、365億8千6百万円、前年同期比3.1%の減収となりました。スポット収入は、商品量(GRP)の問題や昨年大型出稿の反動もあり、231億6千万円、前年同期比0.3%の減収となりました。タイム・スポット合計では、597億4千7百万円、前年比2.0%の減収となりました。BS等収入は、17億5千万円、前年同期比26.7%の減収でした。

番組販売収入は、番組編成事情による平日午後帯への番組販売減少の影響を受けましたが、「出川哲朗の充電させてもらえませんか?」「池の水ぜんぶ抜く!」などが順調に推移し29億6千2百万円、前年同期比0.2%の増収となりました。

ソフトライツ収入は、海外番組部門が中国の検閲に伴う契約遅延で前年度に比べ伸び悩みましたが、「100万円の女たち」「さぼりマン甘太郎」「Re:Mind」など配信会社と連動したドラマの配信権料が引き続き貢献した他、過去のコンテンツの配信追加印税が大きく伸びました。さらに「勇者ヨシヒコ」、「孤独のグルメ」など人気ドラマシリーズのDVD販売も好調に推移したため、全体では前年度を上回りました。アニメ事業では、「妖怪ウォッチ」の国内商品化の減少や配信サイト「あにてれ」の初期投資費用がかかったという事情があるものの、海外での「NARUTO」の配信、ゲームを中心に「ポケモン」「フェアリーテイル」などが堅調に推移し、全体としてソフトライツ収入は174億3千9百万円、前年同期比2.5%増収となりました。

イベント収入は、フィギュアスケート「ジャパンオープン2017・カーニバル オン アイス2017」がチケット販売好調、また「トミカ博 in YOKOHAMA」も来場者数・物販が好調で、イベント収入全体では7億9千1百万円、前年同期比27.9%増収となりました。

一方で、営業費用全体では、773億1千5百万円、前年同期比1.8%の減少となりました。

以上の結果、地上波放送事業の売上高は831億1千5百万円、前年同期比1.3%の減収、営業利益は57億9千9百万円、前年同期比6.3%の増益となりました。

## (放送周辺事業)

音楽出版関連では、第1四半期に想定を上回る印税収入を確保しましたが、第2、第3四半期は、アニメ関連楽曲のヒット作が乏しかったことから、やや伸び悩みが続きました。これにより、(株)テレビ東京ミュージックの売上高は23億1千7百万円、前年同期比0.8%の減収となりました。

CS放送関連では、アニメ専門チャンネル「A-T-X」の加入者数は減少傾向だったものの、「けものフレンズ」ほか投資作品の好調により、ライツ売上が大きく伸びました。これにより、(株)エー・ティー・エックスの売上高は45億5千万円、前年同期比1.8%の増収となりました。

通信販売関連では、調理器具などの生活雑貨が健闘し、「なないろ日和!」を中心とした通販事業が順調に推移。広告関連売上も増加したため、(株)テレビ東京ダイレクトの売上高は72億5千8百万円、前年同期比16.2%の増収となりました。

以上の結果、上述3社を含む放送周辺事業全体の売上高は280億2千百万円、前年同期比6.4%の増収、営業利益は20億4千3百万円、前年同期比12.7%の増益となりました。

(BS放送事業)

放送収入は、特番セールスにおいて、「衝撃!未来のテクノロジー」、「オーストラリア縦断3000キロ 過酷!ソーラーカーレース」を完売するなどして、前期の新本社移転記念大型特番の反動を最小限に留めたことに加え、レギュラータイムセールス、スポットセールスも11月から年末にかけて活発化しました。その他収入も引き続き堅調で、第3四半期会計期間の売上は四半期売上高の新記録となりました。

一方、費用面では、新本社移転に伴う設備使用負担の増加やその他収入の伸びに合わせて経費も増加し、特番などで番組充実を図り番組制作費も増加しました。

以上の結果、BS放送事業の売上高は118億7千5百万円、前年同期比0.8%の増収、営業利益は5億5千万円、前年同期比42.6%の減益となりました。

(インターネット・モバイル事業)

インターネット・モバイル事業では、動画配信関連の売上が好調に推移し、12月では過去最高月次売上高を達成しました。また、キャラクターの海外ライセンス売上、クロスメディア広告売上が増加し、予想を上回る結果となりました。その他、お取り寄せグルメ「虎ノ門市場」のおせちなど年末商品や毎月商品をお届けする頒布会売上が大きく売上を伸ばしました。

以上の結果、インターネット・モバイル事業の売上高は50億円、前年同期比24.4%の増収、営業利益は3億5千2百万円、前年同期比3.7%の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は638億9千1百万円、前連結会計年度に比して16億5千1百万円の増となっております。これは主に、その他が24億2千5百万円の減となったものの、受取手形及び売掛金が17億4千万円の増、制作勘定が19億6千5百万円の増となったことによるものです。

固定資産は547億6千9百万円、前連結会計年度に比して7億3千4百万円の増となっております。これは主に、投資有価証券が18億9千1百万円の増、有形固定資産が9億1千6百万円の減となったことによるものです。

(負債)

流動負債は297億7千9百万円、前連結会計年度に比して18億6千5百万円の減となっております。これは主に、賞与引当金が14億7百万円の減となったことによるものです。

固定負債は68億1千9百万円、前連結会計年度に比して6億3千3百万円の増となっております。これは主に、固定負債その他が5億5千3百万円の増となったことによるものです。

(純資産)

純資産は820億6千2百万円、前連結会計年度に比して36億1千8百万円の増となっております。これは主に、利益剰余金が30億5千2百万円の増、その他有価証券評価差額金が4億9百万円の増となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年11月2日に公表いたしました平成30年3月期の通期の数値を修正しております。詳細につきましては平成30年2月2日公表の「2018年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,290	22,223
受取手形及び売掛金	26,491	28,232
金銭の信託	456	465
制作勘定	9,069	11,034
商品	86	118
貯蔵品	13	13
未収還付法人税等	341	738
その他	3,495	1,070
貸倒引当金	△6	△5
流動資産合計	62,239	63,891
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,733	13,773
機械装置及び運搬具(純額)	11,688	11,272
その他(純額)	7,699	7,159
有形固定資産合計	33,121	32,205
無形固定資産		
その他	2,048	1,933
無形固定資産合計	2,048	1,933
投資その他の資産		
投資有価証券	13,962	15,853
その他	4,928	4,799
貸倒引当金	△25	△23
投資その他の資産合計	18,865	20,630
固定資産合計	54,035	54,769
資産合計	116,275	118,661
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,923	4,176
短期借入金	5,100	5,100
未払費用	13,071	13,269
賞与引当金	1,873	466
未払法人税等	888	378
その他	5,787	6,388
流動負債合計	31,645	29,779
固定負債		
役員退職慰労引当金	39	29
退職給付に係る負債	4,532	4,622
その他	1,613	2,166
固定負債合計	6,186	6,819
負債合計	37,831	36,598

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	20,336	20,336
利益剰余金	42,839	45,892
自己株式	△626	△626
株主資本合計	72,549	75,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,881	4,290
為替換算調整勘定	8	0
退職給付に係る調整累計額	△377	△344
その他の包括利益累計額合計	3,512	3,945
非支配株主持分	2,381	2,513
純資産合計	78,443	82,062
負債純資産合計	116,275	118,661

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	106,767	107,683
売上原価	73,171	74,974
売上総利益	33,596	32,708
販売費及び一般管理費		
人件費	6,144	6,165
賞与引当金繰入額	149	158
退職給付費用	293	284
役員退職慰労引当金繰入額	15	15
代理店手数料	13,672	13,436
賃借料	2,388	1,309
減価償却費	570	960
その他	4,647	4,233
販売費及び一般管理費合計	27,882	26,563
営業利益	5,713	6,144
営業外収益		
受取利息	4	1
受取配当金	187	289
持分法による投資利益	37	29
受取賃貸料	65	71
その他	67	103
営業外収益合計	361	495
営業外費用		
支払利息	13	21
投資事業組合運用損	11	—
為替差損	2	0
金銭の信託運用損	13	—
その他	1	2
営業外費用合計	42	25
経常利益	6,032	6,614

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	109	130
受取補償金	173	112
特別利益合計	283	243
特別損失		
固定資産除却損	103	7
ゴルフ会員権評価損	4	—
その他	1	0
特別損失合計	109	8
税金等調整前四半期純利益	6,207	6,849
法人税、住民税及び事業税	1,539	1,675
法人税等調整額	714	782
法人税等合計	2,253	2,457
四半期純利益	3,953	4,391
非支配株主に帰属する四半期純利益	221	207
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,731	4,184

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	3,953	4,391
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	490	418
為替換算調整勘定	△39	△7
退職給付に係る調整額	32	32
その他の包括利益合計	483	443
四半期包括利益	4,436	4,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,212	4,617
非支配株主に係る四半期包括利益	224	216

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	地上波放送 事業	放送周辺 事業	B S放送 事業	インターネ ット・ モバイル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	77,379	15,156	11,343	2,888	106,767	—	106,767
セグメント間の 内部売上高又は振替高	6,793	11,181	443	1,131	19,549	△19,549	—
計	84,173	26,337	11,786	4,019	126,316	△19,549	106,767
セグメント利益	5,457	1,812	959	340	8,570	△2,856	5,713

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,856百万円には、セグメント間取引等消去104百万円、無形固定資産・制作勘定の調整額6百万円及び全社費用△2,967百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	地上波放送 事業	放送周辺 事業	B S放送 事業	インターネ ット・ モバイル 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	76,018	16,749	11,256	3,659	107,683	—	107,683
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,096	11,271	619	1,341	20,329	△20,329	—
計	83,115	28,020	11,875	5,000	128,012	△20,329	107,683
セグメント利益	5,799	2,043	550	352	8,746	△2,601	6,144

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,601百万円には、セグメント間取引等消去123百万円、無形固定資産・制作勘定の調整額27百万円及び全社費用△2,752百万円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。